

■コメント

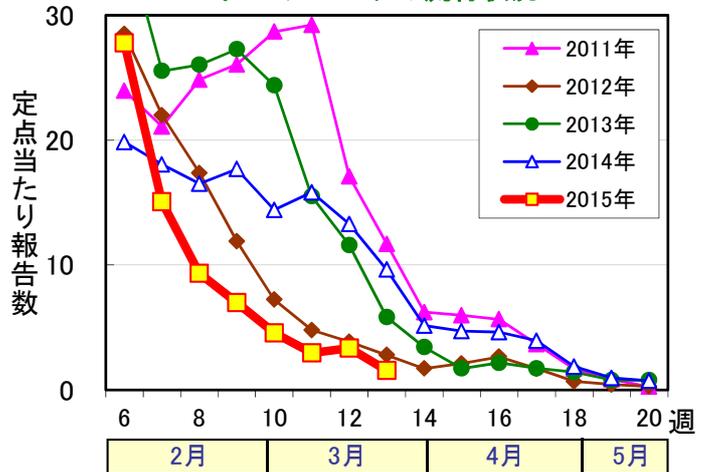
1. インフルエンザ

定点当たり1.54人と大きく減少しました。学校が春休みに入った影響もあると思われますが、例年、春休み後に再び増加し、小規模な流行が5月頃まで続く傾向がみられるため、引き続き手洗い・うがいの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり3.25人と、例年同時期と比較して多い状態が続いています。今年の患者を年齢別でみると、3歳から7歳の報告数が全体の62.4%を占めています。患者との濃厚な接触を避け、マスクの着用や手洗い・うがいの励行など感染予防に努めましょう。(次頁参照)

インフルエンザの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	増減状況										
												急増減	増減	微増減								
小児科	インフルエンザ	57	1.54	6.06	↓	小児科	流行性耳下腺炎	38	1.58	0.59	↔	急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減								
	咽頭結膜熱	2	0.08	0.35	↔	眼科	RSウイルス感染症	2	0.08	0.12	↔	増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減								
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	3.25	1.09	↔	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	↔	微増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減								
	感染性胃腸炎	191	7.96	8.68	↔	基幹	流行性角結膜炎	1	0.13	0.60	↔	横ばい	↔	ほとんど増減なし								
	水痘	7	0.29	1.02	↔	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	↔	報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。										
	手足口病	7	0.29	0.49	↔	基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.03	↔	<table border="1"> <tr> <td>インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>小児科定点数</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>眼科定点数</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>基幹定点数</td> <td>7</td> </tr> </table>			インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37	小児科定点数	24	眼科定点数	8	基幹定点数	7
	インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37																				
	小児科定点数	24																				
	眼科定点数	8																				
	基幹定点数	7																				
伝染性紅斑	1	0.04	0.18	↔	基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.20	↔	(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)											
突発性発しん	9	0.38	0.34	↔	基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	↔												
百日咳	-	-	0.10	↔	基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	↔												
ヘルパンギーナ	-	-	0.03	↔	基幹					↔												

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	6	29	男性(50歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・2人、女性(90歳代)・1人

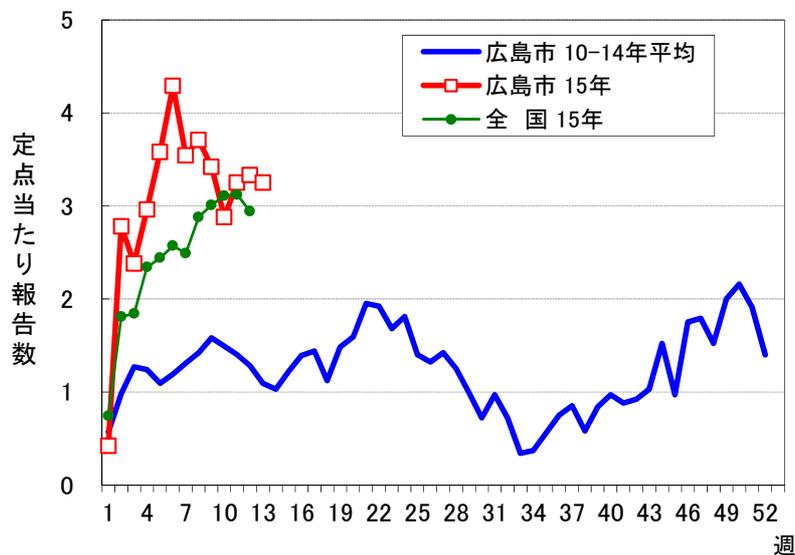
## ■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	感染症																			
		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	
報告数	第9週	258	1	82	279	9	8	-	3	-	1	12	8	-	3	-	-	-	-	-	1
	第10週	168	2	69	243	6	4	-	11	-	2	58	1	-	3	-	2	-	-	-	-
	第11週	109	-	78	257	9	6	-	9	-	-	27	5	-	5	-	-	-	-	-	-
	第12週	124	3	80	196	9	2	-	2	-	-	28	-	1	2	-	-	-	-	-	2
	第13週	57	2	78	191	7	7	1	9	-	-	38	2	-	1	-	-	-	-	-	-
定点当たり	第9週	6.97	0.04	3.42	11.63	0.38	0.33	-	0.13	-	0.04	0.50	0.33	-	0.38	-	-	-	-	-	0.14
	第10週	4.54	0.08	2.88	10.13	0.25	0.17	-	0.46	-	0.08	2.42	0.04	-	0.38	-	0.29	-	-	-	-
	第11週	2.95	-	3.25	10.71	0.38	0.25	-	0.38	-	-	1.13	0.21	-	0.63	-	-	-	-	-	-
	第12週	3.35	0.13	3.33	8.17	0.38	0.08	-	0.08	-	-	1.17	-	0.13	0.25	-	-	-	-	-	0.29
	第13週	1.54	0.08	3.25	7.96	0.29	0.29	0.04	0.38	-	-	1.58	0.08	-	0.13	-	-	-	-	-	-
全国	第11週	3.99	0.33	3.12	8.22	0.51	0.44	0.39	0.45	0.01	0.03	0.33	0.41	0.01	0.43	0.02	0.04	0.20	0.03	0.40	-
	第12週	3.85	0.34	2.94	7.30	0.48	0.42	0.41	0.44	0.01	0.03	0.30	0.33	0.02	0.33	0.03	0.03	0.23	0.02	0.50	-

## ■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。

## 【参考】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はA群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる疾患です。この菌は咽頭炎だけでなく、膿痂疹(うみを伴ったできもの)、猩紅熱、中耳炎、肺炎、関節炎、髄膜炎などいろいろな病気を起こします。

潜伏期間は2～5日で、突然の発熱と全身倦怠感、喉の痛みによって発症し、嘔吐を伴うことがあります。また、舌に「いちご舌」といってイチゴのような赤いつぶつぶができることがあります。

一般に幼児、学童を中心として流行します。年間を通じて患者がみられますが、特に春から初夏、秋から冬にかけて患者発生が多くなります。

この疾患は、患者との接触によって感染しますので、患者との濃厚な接触を避けることが重要です。看護の際は、マスクを着用するなど注意が必要です。また、日常の手洗い・うがいの励行など一般的な予防法も有効です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp)